

女子大学のリカレント教育の現状と今後の展望

Present conditions and future prospects of recurrent education at women's colleges and universities

平井 郁子¹, 辻 幸恵²

¹大妻女子大学キャリア教育センター, ²神戸学院大学経営学部

Ikuko Hirai¹, Yukie Tuji²

¹Career Educational Center, Otsuma Women's University
12 Sanban-cho, Chiyoda-ku, Tokyo, 102-8357 Japan

²Faculty of Business Administration, Kobe Gakuin University
1-1-3 Minatoshima, Chuo-ku, Kobe, 650-8586 Japan

キーワード：女性, リカレント教育, 再就職, 老後, 生きがい

Key words : Women, Recurrent education, Re-employment, Old age, Reason to live

抄録

女子大学における教育環境や建学の精神を生かした魅力的なリカレント教育を導き出すことを目的に、今回は二つのリカレント教育に焦点を絞り検討する。一つは結婚・出産を機に家庭に入り、子育てが一段落したことにより、再度仕事に復帰するという再就職のためのリカレント教育がある。もう一つは65歳以上で仕事を退職し、あるいは家庭の雑務から解放された女性が、生きがいのある有意義な後半の人生を送るためのリカレント教育がある。この両者がどのようなリカレント教育を望んでいるのか調査する。

1. はじめに

1980年代～2010年代になり、専業主婦と家庭および仕事を両立させる主婦が逆転して、専業主婦は少なくなり、女性のライフスタイル^[1]は、家庭と仕事の両立が増加している。同様に男性がパートナー（女性）に望むライフスタイルも専業主婦よりも家庭および仕事を望むライフスタイルが増加している。これとは別に時代に関係なく減少も増加もせず、常に同じ割合存在するのが、独身時代や出産以前は就業し、出産後は専業主婦となり、子どもの手が離れた時期に再就職するというライフスタイルである。これは女性としてのライフスタイルでも、男性がパートナーに望むライフスタイルでも、変わらず存在する。

また、日本の人口推移と将来の推計人口^[2]から65歳以上の人口は2020年（29.1%）、2040年（36.3%）、2060年（39.9%）と65歳以上の人口は増々増加してゆくと推定されている。この65歳以上で仕事を退職した女性、あるいは専業主婦で家庭の雑務から解放された女性の存在がある。厚生労働省の統計から女性の平均寿命年次推移^[3]

をみると87.74歳（2020年：簡易生命表）とあり、65歳～平均寿命まで約23年間と長い時間となる。

2. 目的

子育てが一段落した後に再就職を希望する女性たちや、65歳以上で就労を終え、家庭の雑務から解放され、生きがいある時間を過ごしたいと願う女性たち、この2つの層が実際にはどのようなリカレント教育に望んでいるかを実態調査から検討する。

さらに主な女子大学におけるリカレント教育の実情も知る必要があることから、主要女子大学がどのようなリカレント教育をし、どのような成果をあげているかを調査する。

最後に再就職のため、老後を有意義に過ごすための要望を満たしたリカレント教育とは何かを検討する。

3. 方法

3.1 アンケート調査

アンケート調査は主婦連合会を窓口とし、主婦

連合会会員である 25 歳～90 歳代までの関東地方在住の女性 100 人をお願いした。回答期間は 2022 年 1 月～3 月、回答用紙すべて匿名とした。アンケート調査用紙は、文部科学省^[4]や経済産業省^[5]が社会人を対象にした学び直し等について行ったアンケート調査用紙を参考に作成した。

3.1.1 再就労のためのリカレント教育の調査

子育てあるいは子育てが終了間近の女性が再就職するためにどのような教養、資格を身に付け、再就職を望んでいるかをアンケート調査した。

(1) アンケート調査用紙の作成

質問項目：年齢、最終学歴、専攻分野、現住所の都道府県、就労経験、1 年間の収入、大学での学ぶ意識、学びのプログラム、興味、資格への興味、趣味やボランティア、学びの受講時間、時間帯、受講回数、受講期間、授業料の許容範囲、その他。

(2) アンケート調査対象者

25 歳～49 歳の女性 (41 人)

3.1.2 老後の生きがいある過ごし方のためのリカレント教育の調査

仕事を退職あるいは家庭の雑用等から解放された方が、有意義な後半の人生を送るためにどのような教養を身に付けたいと望んでいるか、アンケート調査をした。

(1) アンケート調査用紙の作成

質問項目：年齢、最終学歴、専攻分野、現住所の都道府県、就労経験、1 年間の収入、大学での学ぶ意識、学びのプログラム、興味、資格への興味、趣味やボランティア、学びの受講時間、時間帯、受講回数、受講期間、授業料の許容範囲、その他。

(2) アンケート調査対象者

50 歳～90 歳代の女性 (59 人)

3.2 大学で実施しているリカレント教育

主な大学で実施している女性のリカレント教育(生涯教育、公開講座などを含む)の特徴、対象、長所・欠点などを調査する。

(1) 調査方法

コロナ禍により調査は、対面ではなくインターネットによる調査となった。

(2) 調査対象

- ・令和 2 年度「女性の多様なチャレンジに寄り添う学びと社会参画支援授業:文部科学省^[6]
- ・令和 2 年度 就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業実施プログラム:文部科学省^[7]
- ・マナパス 特集:女性のための学び直し:文部科学省^[8]
- ・各大学のホームページ^{[9],[10],[11],[12],[13],[14]}

4. 結果及び考察

4.1 アンケート調査

コロナ禍により緊急事態宣言、蔓延防止措置によりアンケート協力者の数が集まらなかったため、女性 100 名に対してアンケートを行った。

100 名の最終学歴を表 1 に示す。今回のアンケート対象者は、25 歳～49 歳が大学卒と大学院修士修了者で 56.1%となる。50 歳～は大学院修了者はいないものの大学卒 63.6%、短大卒 36.6%と若干学歴が高めであることが分かった。

過去の学歴と学びたい気持ちの相関関係(相関係数 0.096)はどの年代にも認められなかった。

表 1. アンケート対象者の最終学歴

最終学歴	25 歳～49 歳		50 歳～	
	人数	%	人	%
高校	7	17.1	9	22.0
専修・各種	6	19.5	5	12.2
高等専門	1	2.4	1	2.4
短大	3	7.3	15	36.6
大学	21	51.2	26	63.4
大学院修士	2	4.9	0	0.0
大学院博士	0	0.0	0	0.0
その他	1	2.4	3	7.3
合計	41	100.0	59	100.0

4.1.1 再就労のためのリカレント教育の調査

子育てが一段落し、再就職を目的とする女性はその様なことを望み、リカレント教育に何を望んでいるのか、アンケート調査結果を示す。

大学など(短期大学、大学院、専修学校、高等専門学校を含む)で、もっと学びたいと思いますか、という質問に対して次のような結果を得た。

- ① 大学などで学びたいと思う:41.5%
- ② 大学などで学ぶことに興味はある:2.4%
- ③ 大学などで学びたいが学ぶことができない:41.5%
- ④ 大学などで学びたいと思わない:14.6%

となった。①～③の82.9%は大学などで学びたい、学ぶことに興味がある、あるいは学びたいが学ぶことができない、と思っていることがわかった。この学ぶことに何らかの興味がある、と考える人の内73.5%はパート・アルバイト(非正規社員・職員)、主婦、ボランティアで、フルタイムで働いているは26.5%であった。

③大学等で学びたいが学ぶことができない理由としては、育児・介護に時間が取られる、家事に時間が取られる、という理由をあげている。

④大学などで学びたいとは思わない理由としては、学びたい教育・研修プログラムが見つからない、職場では学習したことや学習の成果が評価されない、家事に時間が取られる、という理由をあげている。

(1) 大学で学びたい理由

学びたい理由の質問項目を①～⑩に示す。

- ①現在の仕事のスキルアップ
- ②転職のため
- ③再就職のため
- ④資格を取得するため
- ⑤学位を取得するため
- ⑥昇進のため
- ⑦人的なネットワークを得るため
- ⑧生きがいを得るため
- ⑨ボランティアをするため
- ⑩その他

学びたい理由の質問について表2のような結果が得られた。

パート・アルバイト、主婦は、④資格を得るため、⑧生きがいを得るための順になっている。

フルタイムで働いている会社員などは、①現在の仕事のためのスキルアップするため、⑧生きがいを得るため、という理由が多くなった。

両者に見られる⑧生きがいを得るため、④資格を取得するため、①現在の仕事のスキルアップについては、年齢差、学歴差はほとんど見られなかった。いずれも40歳～49歳に多く見られた。

⑩その他には、「未知の世界を学びたい」、「好きなことを知りたい」、「知りたいこと学びたいことがあるから」との回答があった。

主婦のみと回答した人は少ないため、主婦はパート・アルバイトの項目に含めた。

表2. 大学等で学びたい理由 (25歳～49歳)
(複数回答のためポイントにて表示)

理由	パート・アルバイト・主婦	フルタイム会社員等	合計
①現在の仕事のスキルアップ	3	6	9
②転職のため	2	2	4
③再就職のため	1	0	1
④資格を取得するため	8	3	11
⑤学位を取得するため	3	0	3
⑥昇進のため	1	0	1
⑦人的なネットワークを得るため	3	0	3
⑧生きがいを得るため	9	5	14
⑨ボランティアをするため	2	0	2
⑩その他	3	0	3
計	35	16	51

(2) 大学で学びたいもの

学びたいものでは、パート・アルバイトや会社員などに差が見られず、具体的な内容については表3のような結果が得られた。

表3. 大学等で学びたい内容 (25歳～49歳)
(複数回答のためポイントにて表示)

学びたい内容	ポイント
①語学	16
②経営戦略	5
③財務・会計	6
④マーケティング	8
⑤広報・ブランド戦略	7
⑥人事・労務	5
⑦法務	4
⑧統計・データ解析	6
⑨プログラミング	4
⑩マネージメント	7
⑪リーダーシップのスキル	7
⑫ロジカルシンキングのスキル	7
⑬介護に関するスキル	9
⑭保育に関するスキル	9
⑮食生活に関わるスキル	11
⑯衣生活に関わるスキル	8
⑰ITに関するスキル	7
⑱その他	1
計	127

①語学(ビジネス英語、実用英語)が最も学びたいものという結果になった。次に⑮食生活に関

するスキル、そして、⑬介護に関するスキル、⑭保育に関するスキル、さらに、⑤衣生活に関わるスキル、④マーケティングと続く。また、取得したい資格も多くなっている。

- ①語学：TOEIC、英検、中国語検定
- ⑬介護に関するスキル：介護福祉士
- ⑭保育に関するスキル：保育士
- ⑮食生活に関するスキル：管理栄養士、栄養士、調理師

学びたい理由でパート・アルバイト・主婦、フルタイムで働いている会社員など、一番多くの理由として⑧生きがいを得るため（表 2）が多くあった。⑧生きがいを選択した人に具体的な趣味・ボランティアの問いについては表 4 のような結果となった。

表 4. 趣味・ボランティア（25 歳～49 歳）
（複数回答のためポイントにて表示）

趣味・ボランティア	ポイント
①IT に関するもの	3
②音楽	7
③美術	4
④文学	2
⑤伝統芸術	3
⑥伝統工芸	3
⑦健康	7
⑧保育	3
⑨介護	2
⑩食生活	6
⑪衣生活	5
⑫その他	0

趣味・ボランティアでは、②音楽、⑦健康（ヨガ、ストレッチ）⑩食生活（料理、製菓）、⑪衣生活（裁縫、手芸）の順となった。

(3) プログラムの種類

学ぶことに興味がある、学びたいと回答したうち、どのようなプログラムがよいか、の質問に表 5 のような結果が得られた。

プログラム項目を①～⑥に示す。

- ①正規課程
- ②履修証明プログラム
- ③科目履修可能なプログラム
- ④聴講生向けプログラム
- ⑤公開講座
- ⑥その他

学びたい内容についてパート・アルバイト・主婦、フルタイムで働いている会社員等ともに⑤公開講座で学びたい、と考えている人が多い。パート・アルバイト・主婦は、③科目等履修可能プログラム、①正規課程での希望もある。

表 5. 学びたいプログラム（25 歳～49 歳）
（複数回答のため数字はポイントを示す）

プログラム	パート・アルバイト・主婦	フルタイム会社員等	計
①正規課程	5	3	8
②履修証明プログラム	3	3	6
③科目履修可能なプログラム	6	3	9
④聴講生向けプログラム	4	0	4
⑤公開講座	9	5	14
⑥その他	0	0	0

(4) 受講時間

1 回の受講時間は、60 分間：52.9%、90 分間：38.2%で、この 2 つで 91.9%を占めた。

(5) 受講時間帯

複数回答であったが、パート・アルバイト・主婦では、平日の午前中：54.2%、平日の午後：16.7%と多く、フルタイムで働いている会社員等は、平日の午前中、休日の午前中、休日の午後がそれぞれ 25%となった。両者ともその他として、休日または平日の夜のオンライン希望という回答もあった。

(6) 受講回数

週 1 回：64.7%、週 2 回：17.6%、週 3 回：11.8%、その他：5.9%となった。その他には月 1～2 回という回答もあった。

(7) 受講期間

1 か月：17.6%、3 か月：44.1%、6 か月：14.7%、1 年間～：23.5%となり、3 か月がもっとも多くなった。

(8) 授業料

受講料の許容総額を訪ねた。無料：2.9%、1 万円未満：20.6%、1 万円～2 万円未満：17.6%、2 万円～3 万円未満：5.9%、3 万円～5 万円未満：8.8%、5 万円～10 万円未満：11.8%、10 万円～15 万円未満：14.7%、15 万円～20 万円未満：2.9%、20 万円～30 万円未満：5.9%、30 万円～50 万円未満：

5.9%、50万円以上：0%となった。

授業料の許容額は1万円未満あるいは1万円～2万円、多くても15万円までということが分かった。

4.1.2 老後の生きがいある過ごし方のための リカレント教育の調査

退職後、家庭の雑務から解放された後半の人生を有意義に過ごしたいと願う女性たちは、リカレント教育に何を望んでいるのかのアンケート調査結果を以下に示す。

50歳以上のアンケート対象者を50歳～59歳、60歳～69歳、70歳以上に分けて働き方などを調査した結果を表6に示す。50歳以上～アンケート対象者は、年齢による違いがはっきりしているため、年齢別に分析をした。

働き方などの質問項目を下記の①～⑥に示す。

- ② フルタイム勤務
- ②パート・アルバイト
- ③身分が保証されたまま休職
- ④求職中または今後求職予定
- ⑤無職で当面求職する予定無
- ⑥その他

表6. 働き方などの分類 (人) (50歳～)

働き方等	50歳～ 59歳	60歳～ 69歳	70歳～
①フルタイム勤務	10	3	0
②パート・アルバイト	11	8	1
③身分が保証されたまま休職	0	0	0
④求職中または今後求職予定	1	0	0
⑤無職で当面求職する予定無	3	11	6
⑥その他	0	3	2
計	25	25	9

50歳～59歳は、①フルタイムで働いている、②パート・アルバイトなどで働いている。

60歳～69歳になると①フルタイムが少なくなり、②パート・アルバイト、⑤無職が多く、70歳～になると⑤無職が多くなった。

⑥その他では、60歳～69歳、70歳～のボランティア活動、団体活動などとなった。

さらに大学など(短期大学、大学院、専修学校、高等専門学校を含む)で、もっと学びたいと思いますか、という質問に対して次のような結果を得た。

- ① 大学などで学びたい：28.8%
- ② 大学などで学ぶことに興味はある：1.7%

③ 大学などで学びたいが学ぶことができない：45.8%

④ 大学などで学びたいとは思わない：18.6%

⑤ 無回答：5.1%

となった。①学びたい、②興味がある、③学びたいが学べないなど、学ぶことに何らかの意思を持っているが76.3%となった。これを50歳～59歳、60歳～69歳、70歳～の年齢別に分けた割合を表7に示す。

表7. 大学等で学ぶ意思を持つ、意思を持たない人の年齢別割合の内訳 (%) (50歳～)

	50歳～ 59歳	60歳～ 69歳	70歳～
①大学などで学びたい	36	20	33.3
②大学などで学ぶことに興味はある	4	0	0
③大学などで学びたいが学ぶことができない	48	48	33.3
④大学などで学びたいとは思わない	12	32	0
⑤無回答	0	0	33.3
計	100%	100%	100%

年齢の内訳をみると、①学びたいは、年齢にかかわらず多くの割合があった。③学びたいが学ぶことができないは、50歳～59歳、60歳～69歳で48%と多く、70歳以上にも多く見られた。④学びたいとは思わないは、60歳～69歳が多くあり、70歳～には無回答があった。

③学びたいが学ぶことができない理由には、家事、育児、介護に時間が取られる、授業料や通学費用の負担が難しいなどがあげられている。

④学びたいとは思わない理由は、学びたい教育・研修プログラムが見つからない、適当な教育機関が通える場所がない、教育・研修プログラムの開催時間・時期が合わない、決められた時間に縛られたくない、実体験や現場の人から学びたい、近所のコミュニティで好きなことを選んで学べるなどの回答が得られた。

(1) 大学で学びたい理由

大学など(短期大学、大学院、専修学校、高等専門学校を含む)で、もっと学びたいと思いますか、という質問に対して次のような結果を得た。

表7で学びたい①～③と回答の内、学びたい理由を表8に示す。

学びたい理由の質問項目を①～⑩に示す。

- ①現在の仕事のスキルアップ
- ②転職のため
- ③再就職のため
- ④資格を取得するため
- ⑤学位を取得するため
- ⑥昇進のため
- ⑦人的なネットワークを得るため
- ⑧生きがいを得るため
- ⑨ボランティアをするため
- ⑩その他

表 8. 大学等で学びたい理由 (50 歳～)
(複数回答のためポイントにて表示)

	50 歳～ 59 歳	60 歳～ 69 歳	70 歳～
①現在の仕事のスキルアップ	6	0	0
②転職のため	2	0	0
③再就職のため	1	0	0
④資格を取得するため	2	1	0
⑤学位を取得するため	0	0	0
⑥昇進のため	0	0	0
⑦人的なネットワークを得るため	4	2	2
⑧生きがいを得るため	10	10	2
⑨ボランティアをするため	0	5	2
⑩その他	1	1	0

表 8 の大学等で学びたい理由 (50 歳以上～) から 50 歳～59 歳、60 歳～69 歳ともに⑧生きがいを得るため、という理由が多くなった。次に、50 歳～59 歳は①現在の仕事のスキルアップが多かったが、60 歳～69 歳は、⑨ボランティアをするため、が多くなった。

70 歳～は、⑦人的なネットワークを得るため、⑧生きがいを得るため、⑨ボランティアをするため、という理由が多かった。

⑩その他として、自己啓発、趣味の向上という回答があった。それぞれの年代で、無回答が多かった。

学びたい理由で 25 歳～49 歳に見られた、④資格を取得するためという回答は、ほとんどなかった。

(2) 大学で学びたいもの

大学で学びたいものの回答結果を表 9 に示す。大学で学びたいものは、年齢によりばらつきがあるが、傾向としては①語学 (特に英語)、⑬介護に関するスキル、⑭保育に関するスキル、⑮食生活に関わるスキル、⑯衣生活に関わるスキル、つづいて⑰IT に関わるスキル (セキュリティ関係等)、

という回答が得られた。

①語学、⑬介護に関するスキル、⑭保育に関するスキル、⑮食生活に関わるスキル、⑯衣生活に関わるスキルについては、表 3 の 25 歳～49 歳の大学で学びたいものと一致していることが分かる。

⑱その他にはスポーツや文学、歴史等という回答が得られた。

表 9. 大学などで学びたい内容 (50 歳～)
(複数回答のためポイントにて表示)

学びたい内容	50 ～	60 ～	70 ～	計
①語学	5	7	1	13
②経営戦略	3	2	0	5
③財務・会計	1	2	0	3
④マーケティング	2	1	0	3
⑤広報・ブランド戦略	2	1	0	3
⑥人事・労務	1	1	0	2
⑦法務	2	1	0	3
⑧統計・データ解析	1	0	0	1
⑨プログラミング	1	0	0	1
⑩マネージメント	4	0	0	4
⑪リーダーシップのスキル	3	0	0	3
⑫ロジカルシンキングのスキル	3	1	0	4
⑬介護に関するスキル	3	4	2	9
⑭保育に関するスキル	5	4	0	9
⑮食生活に関わるスキル	6	7	2	15
⑯衣生活に関わるスキル	3	4	1	8
⑰IT に関するスキル	2	4	1	7
⑱その他	0	2	1	3
計	47	41	8	96

*50～ (50 歳～59 歳)、60～ (60 歳～69 歳)、70～ (70 歳～)

⑧生きがいを選択した人に具体的な趣味・ボランティアの問いについては表 10 のような結果が得られた。

表 10. 趣味・ボランティア (50 歳以上～)
(複数回答のためポイントにて表示)

趣味・ボランティア	50～	60～	70～	計
①IT に関するもの	2	3	1	6
②音楽	2	4	1	7
③美術	3	4	0	7
④文学	2	3	1	6
⑤伝統芸術	3	7	0	10
⑥伝統工芸	5	6	1	12
⑦健康	4	7	0	11
⑧保育	1	3	0	4
⑨介護	3	4	2	9
⑩食生活	3	7	0	10
⑪衣生活	3	2	0	5
⑫その他	2	0	2	4

表 10 の趣味・ボランティア (50 歳～) から生きがいを考察すると、50 歳以上では、⑤伝統芸術、⑥伝統工芸といったものと、⑦健康、⑨介護、⑩食生活といったもの、2 つのグループに分けることができる。表 4 の趣味・ボランティア (25 歳～49 歳) の②音楽に代わり、⑤伝統芸術、⑧伝統工芸となり、⑨介護が付け加わっている。

(3) プログラムの種類

学ぶことに興味がある、学びたいと回答したうち、どのようなプログラムがよいか、の質問に表 11 のような結果が得られた。

プログラム項目を①～⑥に示す。

- ①正規課程
- ②履修証明プログラム
- ③科目履修可能なプログラム
- ④聴講生向けプログラム
- ⑤公開講座
- ⑥その他

表 11. 学びたいプログラム (50 歳～)
(複数回答のためポイントにて表示)

プログラム	50～	60～	70～	計
①正規課程	3	5	0	8
②履修証明プログラム	5	2	0	7
③科目履修可能なプログラム	10	8	1	19
④聴講生向けプログラム	7	8	2	17
⑤公開講座	14	12	3	29
⑥その他	0	1	2	3
計	39	36	8	83

*50～ (50 歳～59 歳)、60～ (60 歳～69 歳)、70～ (70 歳～)

表 11 から学びたいプログラムは、⑤公開講座、③科目等履修可能なプログラム、④聴講生プログラムの順に多くなった。⑤と③のプログラムは表 5 の 25 歳～49 歳と同様であるが、④聴講生プログラムの希望者が多い。

(4) 受講時間

1 回の受講時間は、60 分間：43.8%、90 分間：43.8%で、この 2 つで 87.6%を占めた。

(5) 受講時間

受講時間については、複数回答であったが、年の違いに大差はなく、平日の午前中：32.0%、平日の午後：28.0%、休日の午前中：18.0%と多く、休日の午後：8%、その他という結果となった。

(6) 受講回数

受講回数については、週 1 回：64.0%、週 2 回：20.0%、その他：16.0%となった。その他には、月 1～2 回、月 3 回という回答もあった。

(7) 受講期間

受講期間は、1 か月：10.4%、3 か月：50.0%、6 か月：16.7%、1 年間：16.7%、その他：6.2%となり、3 か月がもっとも多くなった。

(8) 授業料

最後に受講料の許容総額を質問した。無料：6.9%、1 万円未満：29.8%、1 万円～2 万円未満：12.8%、2 万円～3 万円未満：6.4%、3 万円～5 万円未満：14.9%、5 万円～10 万円未満：10.6%、10 万円～15 万円未満：4.3%、15 万円～20 万円未満：0%、20 万円～30 万円未満：2.1%、30 万円～50 万円未満：0%、50 万円以上：0%となった。

1 万円未満あるいは 1 万円～2 万円未満、2 万円～3 万円未満、多く出しても 10 万円未満ということが分かった。

4.2 大学で実施しているリカレント教育

表 12 に東京都区内における 4 つの大学のリカレント教育を比較したものを示す。2 校 (A,C) は文部科学省の採択校^[6]、1 校 (D) は文部科学省の令和 2 年度「就職・転職支援のための大学リカレント教育推進事業」採択校^[7]、1 校 (B) は内閣府の平成 30 年度「女性エグゼクティブ育成研修」採択校^[8]であり、さらに文部科学省の令和 3 年度「学校教育における外部人材活用事業」採択校^[9]でもある。4 校それぞれ特徴がある。

A は語学 (英語) と IT そして専門資格にも力をいれ、企業説明会、求人紹介・相談など再就職にきめ細やかに対応している。高い割合で再就職をしている。また、家政学部に通修課程を持つ。

B は女性管理職のための必要な心構えや知識を学び、企業経営に活かすカリキュラムである。また、B はリカレント教育として社会人の教職への支援も行っている。

C はマーケティング、ビジネスコミュニケーションなど、家庭から社会復帰するためのカリキュラムである。

D は IT に特化したカリキュラムになっている。IT の知識を武器として身に付けることによる再就職支援のカリキュラムのとなっている。

表 12. 各大学のリカレント教育の比較（東京都内）

大学種別	A ○女子大学	B ※女子大学	C ○総合大学	D ☆総合大学
目的	大学卒業後に就職して育児や進路変更などで離職した女性に1年間のキャリア教育を通して、高い技能、知識、働く自信、責任感を養い、再就職を支援する。	上級管理職の女性を対象に、役員を目指す上級管理職として必要なマインドと知識を学び、自身の目指すリーダー像を明らかにする。	結婚、出産を、育児等で離職して家庭に入った、仕事復帰して社会にもう一度踏み出すきっかけになることを目的とする。	長い生涯における学びを自律的に継続できる人材を育成することを目的とする。短期的には、再就職をめざす女性を対象に、IT教育を行い、付加価値をつけることで、幅広い職場での就職率・就業率の向上を支援する。
知識	目指せるスキル TOEIC610～830点 記録情報管理士、消費生活アドバイザー、日商簿記3級以上、貿易実務検定C級 Microsoft office Specialist Excel、公認内部監査人、社会保険労務士等	コース ダイバーシティ時代のガバナンス経営研修、女性エグゼクティブコース、女性マネジメントステップアップコース、ダイバーシティを活かすリーダーシップ養成コース	カリキュラム マーケティング、金融・財務リテラシー、マネージメント、ビジネスコミュニケーション、ロジカルシンキング等	IT職種対応科目 Webデザイナー、Javaプログラマー、Pythonプログラマー、システムエンジニア、クラウドサーバー運用者向け科目等
応募資格	4年制大卒 就職経験有	課長級または管理職候補の女性、上級管理職の女性	大学または短大を卒業し、就業経験のある女性、満22歳以上	高校以上（就労経験有） 大学卒業以上（就労経験を問わない）
入学定員	40名	各24名	40名	30名
受講期間	1年間	2回～7回（各240時間）	6か月間	4か月（250時間）
入学金・受講料	入学金 33,000円 授業料 300,000円	会員 100,000～250,000円、 非会員 130,000～330,000円	授業料 128,000円	無料（教材費 5000円）
選抜方法	英語テスト、PCテスト 書類選考、面接	応募資格と同様	書類選考・面接	定員以上のとき選考有
取得単位	必修：13単位 選択必修：15単位	受講期間と同様	必修：5科目/72h 選択：4科目/48h以上	必修：13科目/159h 選択必修：1科目/91h
履修	終了証、ジョブカード記載可能なリカレント教育課程履修証明書、成績証明書	無	終了証（履修証明書）	証明書発行無
その他	2021年度から、「働く女性のためのライフロングキャリアコース」を開設	◇社会経験を生かしてあらためて教師を目指す方をサポートあり	夜間・土曜主コースもあり	ITパスポート、基本情報技術者、AWS認定資格など、受験可能

○文部科学省 令和2年度「女性の多様なチャレンジに寄り添う学びと社会参画支援事業」採択校

※内閣府 平成30年度「女性エグゼクティブ育成研修」採択校

☆文部科学省 令和2年度「就職・転職支援のための大学リカレント教育推進事業」採択校

◇文部科学省 令和3年度「学校教育における外部人材活用事業」採択校

5. まとめ

アンケート調査において、50歳未満を再就職のためのリカレント教育、50歳以上を老後の生きがいを得るためのリカレント教育と分け検討した。

(1) 大学で学びたい理由

50歳未満では現在、仕事を持っている者は、仕事のスキルアップを、パート・アルバイトの者は資格を得るため、そして50歳未満、50歳以上の両者において生きがいを得るためという回答が最も多かった。

(2) 学びたい内容

両者ともに語学（英語）、介護に関するスキル、保育に関するスキル、食生活に関するスキル、衣生活に関するスキルの順となった。50歳未満では、衣生活のスキルの次にマーケティングとなっている。

(3) 学べない理由

両者とも家事、育児、介護に追われることを理由としている。

(4) 趣味・ボランティア

50歳未満では、健康、食生活、衣生活、音楽
50歳以上では、健康、食生活、介護、伝統芸術、伝統工芸となった。両者ともに共通するのは健康、食生活となった。

(5) 学びたいプログラム

両者ともに公開講座、科目履修カリキュラムとなった。50歳未満では、次に正規課程となり、50歳以上では、聴講生向けプログラムとなった。

6. 結言

アンケート結果から、女性は最終的に生きがいを求めるために仕事を持ったり、趣味・ボランティアをしたりする。では、この生きがいを得るためにどのようなリカレント教育が良いかという点、もちろん各大学が行っている語学（英語）とITは、現代社会で生きる手段として必要であると考えられるが、実際には毎日の生活に関係する介護に関するスキル、保育に関するスキル、食生活に関するスキル、衣生活に関するスキルを必要としている。

授業プログラムとしては、公開講座が最も多か

った。今回オンラインでの授業を選択肢に入れなかったため、オンライン希望のデータを得ることができなかったが、オンラインでのプログラムであれば、実習科目以外は全国を対象にオンライン形式によるものも十分可能と考える。

7. 今後の課題

この報告書をまとめるに当たり、コロナ禍の状況もあり、現地調査は全くできなかった。アンケート調査は主婦連合会のご協力を得て関東地方で100部だけ集めることができたが、このテーマとするリカレント教育を検討するには、少ないと考える。また、アンケート用紙の質問項目についても、見直しの必要性を感じた。次回はアンケート用紙の項目を見直し、もう少し広い範囲で多くの対象にアンケートを行いたいと考えている。

尚、今回行ったアンケート調査は、大妻女子大学生命科学研究倫理審査の承認を得ている。

8. 謝辞

本研究は、2021年度（令和3年度）大妻女子大学戦略的個人研究（S2102）の助成を受けたものである。

また、アンケート調査において主婦連合会の皆様、そしてアンケートを取りまとめていただいた主婦連合会の平野祐子様、この場をお借りして感謝を申し上げます。

引用文献

[1]厚生労働省. “II女性のライフコースと再就職”. 厚生労働省.

http://www.mhlw.go.jp/www2/info/hakusyo/josei/990126_04_j_gaiyou2 (参照 2022.5.4)

[2]厚生労働省. “第1章平成の30年間と、2040年にかけての社会の変容”. 厚生労働省.

<http://www.mhlw.go.jp/hakusyo/kousei> (参照 2022.5.4)

[3]厚生労働省. “1 主な年齢の平均寿命”. 厚生労働省

<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/life/life20>, life18-02 (参照 2022.5.4)

[4]イノベーション・デザイン&テクノロジーズ株式会社. “社会人の大学などにおける学び直しの実態把握に関するアンケート調査”. 文部科学省高

- 等教育局専門教育課・大学振興課. 2015.12. p.92-99
- [5]株式会社三菱総合研究所科学・安全事業本部ヘルスケア・ウェルネス事業本部. “「人的資本に関する国内外分析調査」報告書”. 経済産業省. 2018.3. p.156-186
- [6]文部科学省. “令和2年度「女性の多様なチャレンジに寄り添う学びと社会参画支援授業」”. 文部科学省.
https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/kyoudou/detail/1376840_00001.htm (参照2021.3.5)
- [7]文部科学省. “令和2年度「就職・転職支援のための大学リカレント教育推進事業（就職・転職支援のためのリカレント教育プログラムの開発・実施）」”. 文部科学省.
https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/2021/mext_00617.html (参照2021.3.5)
- [8]文部科学省. “マナパス特集：女性のための学び直し”. 文部科学省.
<https://manapass.jp/> (参照2021.3.5)
- [9]日本女子大学. “生涯学習センター”. 日本女子大学. <https://llc.jwu.ac.jp/> (2021.3.)
- [10]昭和女子大学. “昭和女子大学キャリアカレッジ”. 昭和女子大学.

- <https://career-college2020.swu.ac.jp/> (2021.3)
- [11]明治大学. “女性のためのスマートキャリアプログラム”. 明治大学
<https://academy.meiji.jp/smartcareer/> (2021.3)
- [12]青山大学. “女性のためのITリカレント教育プログラム”. 青山学院大学
https://www.aoyama.ac.jp/post05/event_20211001_2021.3
- [13]内閣府. “平成30年度「女性エグゼクティブ育成研修」”. 内閣府
https://www.gender.go.jp/research/kenkyu/modelprogram_h30.html (参照2022.6.4)
- [14]文部科学省. “令和3年度「学校教育における外部人材活用事業」”. 文部科学省
https://www.mext.go.jp/b_menu/boshu/detail/mext_00090.html (参照2022.6.4)

参考文献

- [1]昭和女子大学女性文化研究所編. “昭和女子大学文化研究行所叢書 第十集 女性とキャリアデザイン”. 御茶ノ水書房. 2016.2
- [2]斎藤豊他. “女子大生のためのキャリアデザイン”. 日本教育訓練センター. (2016.5)

(受付日：2022年6月16日，受理日：2022年7月1日)

平井 郁子 (ひらい いくこ)

現職：大妻女子大学キャリア教育センター 教授

大妻女子大学大学院家政学研究科被服学専攻修士課程修了。博士（工学）。

専門：被服材料学。

主な著書：衣服材料学実験書（編著，朝倉書店），衣服材料学（編著，朝倉書店）